

講義コード	D360100101	科目ナンバリング	136F202
講義名	博士論文指導(フランス文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Doctoral Thesis		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	2	配当年次	D 1年～3年
時間割	集中(通年) その他 集中講義 遠隔授業		

授業概要

博士論文を遅滞なく完成させるために、資料収集の方法、論文の構成の仕方、具体的なテーマの選び方などを指導する。

到達目標

博士論文を完成できる

授業内容

実施回	内容
第1回	論文の書き方を口頭により指導
第2回	論文の書き方を口頭により指導
第3回	論文の書き方を口頭により指導
第4回	論文の書き方を口頭により指導
第5回	論文の書き方を口頭により指導
第6回	中間発表の準備
第7回	論文の書き方を口頭により指導
第8回	論文の書き方を口頭により指導
第9回	論文の書き方を口頭により指導
第10回	論文の書き方を口頭により指導
第11回	論文の書き方を口頭により指導
第12回	論文の書き方を口頭により指導
第13回	論文の書き方を口頭により指導
第14回	論文の書き方を口頭により指導
第15回	前期のまとめ、レポート
第16回	論文の書き方を口頭により指導
第17回	論文の書き方を口頭により指導
第18回	論文の書き方を口頭により指導
第19回	論文の書き方を口頭により指導
第20回	論文の書き方を口頭により指導
第21回	論文の書き方を口頭により指導
第22回	論文の書き方を口頭により指導
第23回	論文の書き方を口頭により指導
第24回	論文の書き方を口頭により指導
第25回	論文の書き方を口頭により指導
第26回	論文の書き方を口頭により指導
第27回	論文の書き方を口頭により指導
第28回	論文の書き方を口頭により指導
第29回	論文の書き方を口頭により指導
第30回	論文の書き方を口頭により指導

授業方法(対面授業の場合)

個別面談

授業方法(遠隔授業の場合)

基本的にZoomを使用する

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に自分が抱えている問題を整理しておくこと

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

面談によるフィードバック

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360100101	科目ナンバリング	136F201
講義名	修士論文指導(フランス文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Master's Thesis		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	2	配当年次	M 1年～2年
時間割	集中(通年) その他 集中講義 遠隔授業		

授業概要

修士論文を遅滞なく完成させるために、資料収集の方法、論文の構成の仕方、具体的なテーマの選び方などを指導する。

到達目標

修士論文を完成できる

授業内容

実施回	内容
第1回	論文の書き方を口頭により指導
第2回	論文の書き方を口頭により指導
第3回	論文の書き方を口頭により指導
第4回	論文の書き方を口頭により指導
第5回	論文の書き方を口頭により指導
第6回	中間報告の準備
第7回	論文の書き方を口頭により指導
第8回	論文の書き方を口頭により指導
第9回	論文の書き方を口頭により指導
第10回	論文の書き方を口頭により指導
第11回	論文の書き方を口頭により指導
第12回	論文の書き方を口頭により指導
第13回	論文の書き方を口頭により指導
第14回	論文の書き方を口頭により指導
第15回	前期のまとめ、レポート
第16回	論文の書き方を口頭により指導
第17回	論文の書き方を口頭により指導
第18回	論文の書き方を口頭により指導
第19回	論文の書き方を口頭により指導
第20回	論文の書き方を口頭により指導
第21回	論文の書き方を口頭により指導
第22回	論文の書き方を口頭により指導
第23回	論文の書き方を口頭により指導
第24回	論文の書き方を口頭により指導
第25回	論文の書き方を口頭により指導
第26回	論文の書き方を口頭により指導
第27回	論文の書き方を口頭により指導
第28回	論文の書き方を口頭により指導
第29回	論文の書き方を口頭により指導
第30回	通年のまとめ、レポート

授業方法(対面授業の場合)

個別面談

授業方法(遠隔授業の場合)

基本的にZoomを使用

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に自分が抱えている問題を整理しておくこと

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

面談によるフィードバック

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360200101	科目ナンバリング	136F101
講義名	フランス語学特殊研究(大学院)		
副題	フランス語の歴史的・地域的・多様な広がり		
英文科目名	Studies in the French Language		
担当者名	松村 剛		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 月曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

フランス語の歴史的、地域的な広がりや多様性を理解していただくことを目的とします。そのために必要な道具を紹介し、それらを批判的に活用する練習をしていただきます。論文作成などのために知っておくべき基本的な研究倫理についても学んでいただきます。

到達目標

履修者各自の研究対象と関連させながら、フランス語の歴史的、地域的な広がりや多様性を理解していただくことを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	概説。
第2回	Le Petit Robert の特徴と問題点。
第3回	Le Petit Robert の批判的読解演習。
第4回	Le Tresor de la Langue française の特徴。
第5回	Le Tresor de la Langue française の問題点。
第6回	Le Tresor de la Langue française の批判的読解演習。
第7回	Dictionnaire des onomatopées の特徴と問題点。
第8回	Dictionnaire des onomatopées の批判的読解演習。
第9回	Dictionnaire des jurons の特徴と問題点。
第10回	Dictionnaire des jurons の批判的読解演習。
第11回	Dictionnaire des regionalismes de France の特徴と問題点。
第12回	Dictionnaire des regionalismes de France の批判的読解演習。
第13回	Französisches Etymologisches Wörterbuch の特徴と問題点。
第14回	Französisches Etymologisches Wörterbuch の批判的読解演習。
第15回	総括。
第16回	Le Bon Usage の特徴と問題点。
第17回	Le Bon Usage の批判的読解演習。
第18回	Littre の特徴と問題点。
第19回	Littre の批判的読解演習。
第20回	Huguet の特徴と問題点。
第21回	Huguet の批判的読解演習。
第22回	Dictionnaire du Moyen Français の特徴と問題点。
第23回	Dictionnaire du Moyen Français の批判的読解演習。
第24回	Godefroy の特徴と問題点。
第25回	Godefroy の批判的読解演習。
第26回	Tobler-Lommatzsch の特徴と問題点。
第27回	Tobler-Lommatzsch の批判的読解演習。
第28回	Anglo-Norman Dictionary の特徴と問題点。
第29回	Anglo-Norman Dictionary の批判的読解演習。
第30回	総括。

授業方法(対面授業の場合)

講義、演習。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型。Zoomを使用します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に指示した箇所を読んでおくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):80%(積極的に授業に参加すること。) レポート:20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生のレポートその他は授業内でコメントし、授業の内容に反映させる。

教科書コメント

授業時に指示する。

参考文献コメント

授業時に指示する。

カリキュラムマップ右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360202101	科目ナンバリング	136F103
講義名	◆フランス文学特殊研究(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
副題	アンドレ・ジッド研究		
英文科目名	Studies in French Literature		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 木曜日 3時限 仏文院生室.通年 木曜日 3時限 対面授業		

授業概要

アンドレ・ジッドが自らのアルジェリア旅行の体験を織り込んで書いた『背徳者 L'Immoraliste』(1902)を読む。旅行先の北アフリカで重病に倒れたあと、九死に一生を得て回復した主人公が、強烈な太陽の下ではじめて生命の歓喜に目覚め、既成の道徳や観念を捨ててひたすら肉体の感覚に生きる「背徳者」となる姿を描くこの作品を通して、ジッドの思想と文学について考えていきたい。

到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、その内容を文化的歴史的背景を含めて理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析してそれを説得的に他者に伝えることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	作家および作品についての解説
第3回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(1)
第4回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(2)
第5回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(3)
第6回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(4)
第7回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(5)
第8回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(6)
第9回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(7)
第10回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(8)
第11回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(9)
第12回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(10)
第13回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(11)
第14回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(12)
第15回	まとめ
第16回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(13)
第17回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(14)
第18回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(15)
第19回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(16)
第20回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(17)
第21回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(18)
第22回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(19)
第23回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(20)
第24回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(21)
第25回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(22)
第26回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(23)
第27回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(24)
第28回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(25)
第29回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(26)
第30回	総括

授業計画コメント

詳しい授業計画は初回授業時に配布する。

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使用)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

教科書

L'Immoraliste: folio, Gide, Gallimard, 9782070362295

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360202102	科目ナンバリング	136F103
講義名	◆フランス文学特殊研究(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
副題	『パリの憂鬱』を読む 2		
英文科目名	Studies in French Literature		
担当者名	鈴木 啓二		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 金曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

昨年度に引き続き、ボードレールの散文詩集『パリの憂鬱』の様々な詩篇を読みながら、この詩集、あるいは、「散文詩」という19世紀に誕生した新しい文学ジャンルそのものが含み持つ、複数の射程(美学的、宗教的、政治的射程)を考察する。昨年度の授業では、ボードレールの散文詩を、「表象不可能な現実(界)の表象」を企図する、終わりなき営為の所産としてとらえるに至った。

今年度の授業では、この営為を、19世紀中庸における、美学、宗教、政治の根源的変容(写真、汎神論、共和主義)という、歴史的な文脈の中で、より具体的に検討していく。

授業は、理論的考察と詩編の読解という二つの部分からなる。

今年度、理論的考察の柱とするのは、2000年代初めに、トゥルーズ大学を中心に活動を始めた、Philippe Ortel, Arnaud Rykner, Stéphane Lojkineらの論文である。

なお、下にあげる各回の授業内容は、一年間でとりあげる内容を大まかに列挙したものである。実際の授業においては、それぞれのテーマをとりあげる順序を、変更する可能性がある。

到達目標

ボードレールの散文詩が切り開いた地平がどのようなものであったかを、各自の関心に即して把握できるようになること

授業内容

実施回	内容
第1回	1学期全体についての説明
第2回	散文詩と、19世紀中庸の美学的変容(写真と文学)1
第3回	散文詩と、19世紀中庸の美学的変容(写真と文学)2
第4回	散文詩と、19世紀中庸の美学的変容(写真と文学)3
第5回	散文詩と、19世紀中庸の美学的変容(写真と文学)4
第6回	学生による発表
第7回	19世紀中庸の宗教的変容(汎神論と文学)1
第8回	19世紀中庸の宗教的変容(汎神論と文学)2
第9回	19世紀中庸の宗教的変容(汎神論と文学)3
第10回	19世紀中庸の宗教的変容(汎神論と文学)4
第11回	学生による発表
第12回	中間的総括1
第13回	中間的総括 2
第14回	学生による発表
第15回	振り返り、到達度確認、等
第16回	2学期全体についての説明
第17回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)1
第18回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)2
第19回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)3
第20回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)4
第21回	学生による発表
第22回	散文詩篇の政治的読解1
第23回	散文詩篇の政治的読解2
第24回	散文詩篇の政治的読解3
第25回	散文詩篇の政治的読解4
第26回	学生による発表
第27回	授業全体の総括1
第28回	授業全体の総括2
第29回	学生による発表
第30回	振り返り、到達度確認、等

授業方法(対面授業の場合)

(本授業は、遠隔授業を基本とする。以下に記す、遠隔授業の方法を参照のこと)

授業方法(遠隔授業の場合)

ZOOMを用いて行う。授業では、何回か続けて鈴木が特定のテーマに関する講義を行ったあと、参加している学生一人一人から、講義の内容についてのコメントを述べてもらう。コメントは、学生各々の研究と関連づけることが望ましい。また、各回の授業の中でも、随時、コメントを求めることがある。各回の授業への積極的な参加が求められる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回に講読を予定しているテキストや、WebClass上で公開する日本語によるレジュメなどは、事前に必ず読んでおくこと。フランス語テキストの事前の準備に際しては、仏和辞典だけでなく、仏仏辞典(Grand Robert, Grand Larousse, TLFなど)にもあたること。なお、第一回授業で、辞書についての簡単な説明も行う。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に、発表に対するコメントの形で行う

教科書

Le Spleen de Paris: Le livre de poche "classiques", Baudelaire, Le Livre de Poche, 2003

教科書コメント

Le Livre de Poche版がどうしても入手できない場合は、他の版を用いても構わない

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360300101	科目ナンバリング	136F104
講義名	◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)		
副題	Dissertation et autres travaux		
英文科目名	Seminar in the French Language		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 水曜日 3時限 西1-212.通年 水曜日 3時限 対面授業		

授業概要

Ce cours a pour objet de préparer les étudiants à l'écriture de textes universitaires et notamment à la pratique de la dissertation, dont l'apprentissage progressif occupe à peu près l'intégralité du système d'enseignement secondaire en France ou, du moins, le faisait, quand la France avait encore un enseignement secondaire digne de ce nom.

到達目標

Il s'agira donc d'assimiler, en un an seulement, des exercices avec lesquels les collégiens et lycéens de France avaient naguère six ans pour se familiariser. Ce labeur, sans doute un peu exigeant (et vraisemblablement mal récompensé) commencera par l'initiation au résumé-contraction de texte, que suivra la présentation technique du commentaire composé. Enfin, nous en viendrons à la dissertation proprement dite.

授業内容

実施回	内容
-----	----

- | | |
|------|---|
| 第1回 | Présentation : La conception française du travail écrit. |
| 第2回 | Le résumé et la contraction de texte : (1) principes généraux. |
| 第3回 | Le résumé et la contraction de texte : (2) travaux pratiques en classe. |
| 第4回 | Le résumé et la contraction de texte : (3) travaux pratiques en classe. |
| 第5回 | Le résumé et la contraction de texte : (4) travaux pratiques en classe. |
| 第6回 | Le résumé et la contraction de texte : (5) travaux pratiques en classe. |
| 第7回 | Le résumé et la contraction de texte : (6) première évaluation. |
| 第8回 | Le commentaire composé : (1) principe généraux de l'explication de texte. |
| 第9回 | Le commentaire composé : (2) explication de texte, travaux pratiques en classe. |
| 第10回 | Le commentaire composé : (3) explication de texte, travaux pratiques en classe. |
| 第11回 | Le commentaire composé ; (4) Etablissement d'un plan de commentaire. |
| 第12回 | Le commentaire composé : (5) Explication de texte et établissement d'un plan de commentaire. Travaux pratiques en classe. |
| 第13回 | Le commentaire composé : (6) Explication de texte et établissement d'un plan de commentaire. Travaux pratiques en classe. |
| 第14回 | Le commentaire composé : (7) Explication de texte et établissement d'un plan de commentaire. Travaux pratiques en classe. |
| 第15回 | Bilan du premier semestre. |
| 第16回 | La dissertation : (1) présentation générale. |
| 第17回 | La dissertation : (2) Comprendre le sujet. |
| 第18回 | La dissertation : (3) Chercher des idées, chercher des exemples. |
| 第19回 | La dissertation : (4) Etablir un plan. |
| 第20回 | La dissertation : (5) Etablir un plan. Travaux pratiques en classe. |
| 第21回 | La dissertation : (6) Etablir un plan. Travaux pratiques en classe. |
| 第22回 | La dissertation : (7) Etablir un plan. Travaux pratiques en classe. |
| 第23回 | La dissertation : (8) Etablir un plan. Travaux pratiques en classe. |
| 第24回 | La dissertation : (9) Ecrire une dissertation. |
| 第25回 | La dissertation : (10) Travaux pratiques en classe. |
| 第26回 | La dissertation : (11) Travaux pratiques en classe. |
| 第27回 | La dissertation : (12) Travaux pratiques en classe. |
| 第28回 | La dissertation : (13) Travaux pratiques en classe. |
| 第29回 | La dissertation : (14) Travaux pratiques en classe. |
| 第30回 | Bilan de l'année |

授業方法(対面授業の場合)

Nous réfléchirons ensemble sur les différents sujets proposés. Les travaux écrits ont leur temporalité propre, dans laquelle il convient de ménager des moments de rédaction, suivis d'une présentation au reste de la classe.

授業方法(遠隔授業の場合)

La méthode n'est pas fondamentalement différente pour les cours en ligne : elle suppose seulement une plus grande dextérité digitale et de savoir taper à la machine !

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Je demanderai aux étudiants qui suivent le cours de mettre en forme les notes de la séance précédente : soit d'établir un plan à partir des idées conçues ensemble, soit de rédiger en totalité ou en partie le plan de dissertation préparé en classe.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	Principalement le travail effectué en classe.
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

Je n'ai rien de spécial à ajouter dans cette rubrique mais il est apparemment obligatoire d'y inscrire quelque chose : voilà donc qui est fait !

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que tous les travaux que je demande aux étudiants feront l'objet d'une correction et d'une explication.

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360300102	科目ナンバリング	136F104
講義名	◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)		
副題	発話行為について考える		
英文科目名	Seminar in the French Language		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 火曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

フランス語で書かれた言語学関連の短い文章または論文を読むことで、書き言葉のフランス語に慣れると同時に、言語学の第一歩となるような視点を養う。今年度は、主として語用論的な視点から日常を取り巻く言語の考察を深めたい。

到達目標

書き言葉のフランス語に慣れること、フランス語らしいフランス語が書けるようになること、ことば一般に対する興味を深めることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	日常を取り巻く言語について(1)
第3回	日常を取り巻く言語について(2)
第4回	日常を取り巻く言語について(3)
第5回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(1)
第6回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(2)
第7回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(3)
第8回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(4)
第9回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(5)
第10回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(6)
第11回	発表(1)
第12回	発表(2)
第13回	発表(3)
第14回	授業の総括
第15回	予備日
第16回	日常を取り巻く言語について日本語とフランス語の比較(1)
第17回	日常を取り巻く言語について日本語とフランス語の比較(2)
第18回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(1)
第19回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(2)
第20回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(3)
第21回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(4)
第22回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(5)
第23回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(6)
第24回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(7)
第25回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(8)
第26回	発表(1)
第27回	発表(2)
第28回	発表(3)
第29回	授業の総括
第30回	予備日

授業方法(対面授業の場合)

フランス語についての文章を読み、理解を深めながら議論していく演習方式

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使ったオンライン授業(対面と同じ内容)とSlackを使った資料配布などオンデマンド方式を併用する

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

担当箇所を調べるだけでなく、全体を読んで内容を理解するようにしておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):(テキストの予習、授業における参画、発表。)単なる出席ではなく、授業への参加態度も成績評価の対象とする。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートについては、コメント、返却する。

教科書コメント

授業で講読する論文は、授業中に指示する。

参考文献

Quand dire, c'est faire, J.L. Austin, Éditions du Seuil, 1970

Les actes de langage dans le discours, C. Kerbrat-Orecchioni, Armand Colin, 2008

Politeness, Brown & Levinson, Cambridge, 1987

Langage et discours, P. Charaudeau, Hachette université, 1983

Les phrases sans texte, D. Maingueneau, Armand Colin, 2012

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360301102	科目ナンバリング	136F105
講義名	◆フランス文学演習(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
副題	モンテスキュー『ペルシャ人の手紙』をよむ		
英文科目名	Seminar in French Literature		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 火曜日 3時限 南1-204.通年 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

モンテスキュー『ペルシャ人の手紙』を取り上げる。パリに旅行し滞在するペルシャ人の目を通して当時のフランスの世相や制度を諷刺すると同時に、彼があとに残してきた後宮での愛憎劇も並行して描かれるという作品である。

到達目標

作品の背景や、言葉の綾を理解しながら、フランス語のテキストを理解し、分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	作品の冒頭部について
第3回	訳読と分析
第4回	同上
第5回	同上
第6回	同上
第7回	同上
第8回	同上
第9回	同上
第10回	同上
第11回	同上
第12回	同上
第13回	同上
第14回	まとめ
第15回	自主研究
第16回	訳読と分析
第17回	同上
第18回	同上
第19回	同上
第20回	同上
第21回	同上
第22回	同上
第23回	同上
第24回	同上
第25回	同上
第26回	同上
第27回	同上
第28回	同上
第29回	まとめ
第30回	自主研究

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

Webclassで資料などをやりとりしつつ、Zoomでのリアルタイム。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめテキストを読み、分からない単語などを調べておく。
発表担当者はレジユメを準備する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。受講者の数などによって変更することがある。
この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、コメントを付して返却する。

教科書

Lettres Persanes, Montesquieu, Le Livre de poche, 9782253082224

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360302101	科目ナンバリング	136F106
講義名	◆フランス演劇演習(学部:フランス語圏文化演習(舞台・映像))(大学院)		
英文科目名	Seminar in French Theater		
担当者名	DE VOS, Patrick		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 木曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

この授業では、フランス、又フランス語圏で戦後以降の舞台芸術の軌跡を刻んだと思われる幾つかの作品を通して、演劇やダンスを通じた顕著な傾向を考えていく。そのなかでドラマより声の空間として舞台への重視、演出家を中心とする制作方法に対して劇団または集団組織の有効性、レパートリーよりパフォーマンスへのシフト、フィクションに対して事実・史実への指向性などを注目することができる。

特に視野に入れるのは政治性を強調するドキュメンタリー演劇の台頭である。また、いわゆるポストコロニアル状況におけるフランス語圏の周辺で作られる舞台芸術にも目配りをする。これらのトピックはフランス語による戯曲、演劇評論・理論を精読したり映像資料を分析したりすることによって扱う。

到達目標

1. ビデオで観られる、できるだけたくさんの作品に触れることによって、20世紀のフランス語による舞台芸術について抽象的な知識に止まらずに、ある程度の「体験」に基づく読みをする。
2. 各作品について、その歴史的な背景を確認すると共にその美学的、思想的、社会的な問いかけについて考えることを学ぶ。
3. 最近の舞台芸術研究ではビデオなどのアルカイブに頼って作品を観て論じる方法論の諸問題を考える。
4. 発表することによって、感心のある作品について資料収集し、分析を行い、それを想像的に整理した上で授業で他の学生とその結果の共有し議論することを学ぶ。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション。授業の内容や方法の説明。
第2回	ベケットの『Fin de partie』の試読, その1.
第3回	『Fin de partie』その2. この作品で何が語られているのか、あるいは語られていないのか。
第4回	巨匠の演出家Antoine Vitezの『Electre』を観る。
第5回	『Electre』その2.
第6回	演出と演技の修行の物語, Brigitte Jaquesの『Elvire/Jouvet』.
第7回	『Elvire Jouvet』その2.
第8回	Racine著『Bérénice』を演出するGrüberによる詩の展示, ことばの露出.
第9回	太陽劇団における集団創作、演出と観客。『1789』の場合.
第10回	『1789』その2.
第11回	演出家を除くTg Stanの『Les Antigones』(2001年).
第12回	『Les Antigones』その2.
第13回	登場人物に声(身体)を奪われたパフォーマー: Giselle Vienneの『Jerk』
第14回	『Jerk』その2.
第15回	身体によってパフォーマーが問う観客の眼差. Xavier Leroyの『self-portrait unfinished』
第16回	Sony Labou Tansiの政治演劇。『Machin la Hernie』の場合
第17回	ドキュメンタリー演劇の方法をもとめて。『Rwanda 94』をめぐって
第18回	『Rwanda 94』その2. ドキュメンタリーを観る
第19回	『Rwanda 94』を考える、その3.
第20回	太陽劇団の『Tambours sur la digue』における時代物と現在
第21回	太陽劇団の『Le dernier caravansérail』におけるドキュメントの性格.
第22回	太陽劇団の『Le dernier caravansérail』その2.
第23回	Milo Rauの『La reprise』における暴力とその復元のパフォーマンス
第24回	Milo Rauの『La reprise』その2
第25回	学生による発表
第26回	学生による発表
第27回	学生による発表
第28回	学生による発表
第29回	学生による発表
第30回	まとめ

授業計画コメント

以上のスケジュールでは場合によって扱う項目の順番などの変更がある可能性もある。

授業方法(対面授業の場合)

Le cours sera dispensé en français, de façon générale, et en ligne, avec la possibilité cependant de tenir certaines séances en présentiel.

授業方法(遠隔授業の場合)

基本的にフランス語で授業を行う。また、基本的に授業をオンラインで行うが、状況が許す限り、学生さんたちと相談した上で時々対面で行うこともある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

取り扱う作品によって、そのもとになる戯曲や、配った関連資料などの文章を読むことと、毎回の授業についてのコメント(質問も含む)を書いて提出することが要求される。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	発表

成績評価コメント

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

メールか、授業中で意見交換の形でフィードバックをする。

教科書コメント

教科書を使わないが、授業で資料の情報について指示する。

参考文献

演劇学の教科書,C.ビエ&C.トリオー,国書刊行会,2009

ポストドラマ演劇,H.T.レーマン,同学社,2002

Le Théâtre en France,Jacqueline de Jomaron,H. Champion,1996

Fin de Partie,Samuel Beckett,Minuit,1957

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>